北稜中

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の在り方

～生徒が「見方・考え方」を働かせる学習場面の工夫～

（１年計画の１年次）

校長　　豊島　匡生

１　研究主題について

中学校学習指導要領においては，「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」がうたわれており，「対話的」な学習を通して「深い学び」を実現することが求められている。本校ではそれに向けて，令和４年度までの３年間，「主体的・対話的で深い学び」を主題に掲げて授業改善に取り組んできたが，その成果として，「主体的な学び」「対話的な学び」については，ある程度の成果が得られたものと思われる。しかし，「深い学び」については，まだ不十分な面があると言わざるをえない。

「深い学び」が実現しない要因としては，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を意識した授業づくりができていないことが挙げられる。学習指導要領解説において充実を図るよう配慮することが求められている学習活動等は，いずれも「見方・考え方を働かせること」が前提となっているため，「深い学び」を実現するためには，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を意識した学習場面を設定することが必要である。

以上のことから，令和５年度からの３年間も継続して「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の在り方」を研究主題とし，副題を「生徒が『見方・考え方』を働かせる学習場面の工夫」として研究を進めていく。特に本年度からの研究では各教科に共通して取り組む具体的な手立てを模索し，「見方・考え方」を働かせる学習場面づくり，「深い学び」の実現に主軸をおいた授業づくりを進めていきたいと考える。

２　研究のねらい

生徒が主体的に参加する対話的な学習場面の中に，生徒が各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習場面を効果的に設定することを通して，深い学びを実現する。

３　研究仮説

各教科・領域において，生徒が各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習場面を設定することにより，深い学びを実現できる。

４　研究内容

(1)　生徒が「見方・考え方」を働かせる学習場面の設定の工夫
(2)　生徒が「見方・考え方」を働かせる学習場面を意識した指導計画の工夫
(3)　生徒が自ら課題を発見できるような問題提示の工夫
(4)　授業の流れと到達目標を明確にした授業の工夫
(5)　授業アンケート結果を踏まえた指導法の改善

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	内　　容	全体会・備考
6	1~9	第１回授業研究(授業参観週間)	
	13	NRT の分析（各教科）	
6 / 7	22~2	授業アンケートの実施①	
7	3	第２回授業研究 （教育指導課・センター訪問）	・各教科，領域の指導案作成
9	２７	第１回校内研修 「特別活動の指導案について」 八戸市総合教育センター 講師　主任指導主事 佐々木亮子氏	
１０	２６	第３回授業研究 初任研特活研修講座 授業者　１年　教諭　成田亜侑美 ２年　教諭　小島友依子	
１１ 11/12	13~30 24~4	授業アンケートの実施② 第４回授業研究（授業参観週間）	
2	1~9	授業アンケートの実施③ (3学年)	
3	1~15	授業アンケートの実施④ (1, 2学年)	

(2) 一般研修

月	日	内　　容
8	1~11	授業アンケートの分析・考察① １学期の取り組みの反省と年間計画の見直し
１１	１７	今年度の課題，来年度に向けての改善点の洗い出し
1	１９	授業アンケートの分析・考察② ２学期の取り組みの反省と年間計画の見直し
2	１５	授業アンケートの分析・考察③　３学年のみ 今年度の反省と来年度の研究の方針についての話し合い
3	１５	授業アンケートの分析・考察④　１，２学年 今年度の研修のまとめ

６　研究の成果

・初任研特活研修講座の会場校となったことで，全校体制での特別活動への取り組みが活性化した。また，発表に向けた要請訪問により，特別活動のねらいを踏まえつつ，授業の進め方などを話合うことができた。

７　研究の課題

・本年度の校内研究は特別活動の発表が中心となった。各教科における「見方・考え方」を働かせる学習場面の設定は，主体的・対話的で深い学びの実現のために非常に重要な課題であり，来年度以降も継続して研修を進めていく必要がある。

（記入者　　接待　裕行）